

# Geriatric Nutritional Risk Index as a Simple Predictor of Mortality in Maintenance Hemodialysis Patients: A Single Center Study

メタデータ	言語: en 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, さやか メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032092">https://doi.org/10.20780/00032092</a>

## 主論文の要約

Geriatric Nutritional Risk Index as a Simple Predictor of Mortality in  
Maintenance Hemodialysis Patients: A Single Center Study

(維持透析患者における死亡予測因子としての GNRI)

東京女子医科大学 内科学 (第四) 教室  
(指導: 新田 孝作教授)  
高橋 さやか

International Journal of Clinical Medicine, 2015, 6, 354-362 に掲載

### 【目的】

維持透析患者において、栄養不良は死亡リスクと関連している。

GNRI (geriatric nutritional index) は栄養不良のリスクを評価するツールとして開発された。本研究の目的は、維持透析患者の死亡予測において、GNRI の有用性を調査することである。

### 【対象および方法】

対象は平均年齢  $59.2 \pm 12.8$  才の 259 人の維持透析患者で、36 か月間観察し、後ろ向きコホート研究にて調査した。被験者 ( $n=259$ ) は、定期的に週 3 回の透析を受けていた。透析の原疾患は、慢性糸球体腎炎 ( $n=98$ )、糖尿病性腎症 ( $n=76$ )、腎硬化症 ( $n=52$ )、多発性嚢胞腎 ( $n=18$ )、慢性腎盂腎炎 ( $n=9$ )、不詳 ( $n=6$ ) であった。患者を GNRI 値 91 を境界に 2 つのグループに分類し、総死亡率をカプランマイヤー解析とコックス比例ハザード解析にて比較した。

### 【結果】

36 か月間の観察期間中に 26 人が死亡した。カプランマイヤー解析では、GNRI  $\geq 91$  ( $n=230$ ) の患者よりも、GNRI  $< 91$  ( $n=29$ ) の患者の方が、生存率が低

かった (log-rank test,  $p < 0.0001$ )。コックス比例ハザード解析では、GNRI は総死亡を予測する独立した危険因子であることが判明した (HR 0.927; 95%CI 0.870 - 0.984,  $P = 0.013$ )。

## 【考 察】

日本の維持透析患者における死亡率を予測するのに、栄養不良のツールとして、GNRI を調査した。ROC解析に従って、GNRI value のカットオフ値を 91 に設定した。GNRI < 91 の患者は、GNRI  $\geq$  91 の患者と比較すると、明らかに生存率が低かった。本研究の結果から、GNRI は日本の透析患者の総死亡を予測する独立した危険因子であることを証明している。また、GNRI は総死亡を予測するパラメーターの 1 つである。血清アルブミン値や BMI を含む客観的なデータから、GNRI は算出されており、栄養不良の簡単なスクリーニングとなる。そして、GNRI は健康管理の費用が上昇するリスクや、独居老人において、入院するリスクを予想することが出来ると考えられる。よって、GNRI は日常的に使われる低コストの簡便なツールになり得るかもしれない。

## 【結 論】

GNRI は維持透析患者の総死亡を予測する重要な因子であることが判明した。